

+1(プラスワン)



「プレミアムエブリデー」

牧師 横山順一

日本で西暦（太陽暦）が導入されたのは明治五年暮れのことだった。陰暦で、本来十二月三日だったこの日が、一八七三年一月一日と改変された。ついでにこの日から明治六年ともなった。

一応、一か月前から変更が伝えられてはいたが、現在より伝達手段が圧倒的に乏しかった時代、多くの人にとって「何やねん？」という唐突な変更だったろう。

何しろ 師走に入ったばかりで、いきなり正月になる訳だ。頭の切り替えがなかなか追いつかなかつたと想像する。

だからこそ庶民の間では、旧暦が平行して使われ続けた。中国では今もそうだが、私の子どもの頃も二月の旧暦の正月を結構大々的に祝っていた。

正月のお餅が一月中出され、とくに飽きて閉口していた矢先、ようやく迎えた二月に、またしても旧正月の餅つきとなる訳だ。さて現天皇から新天皇へのバト

ンタッチの日程が決まった。来年五月一日である。

平成三十年は、今年いっぱいでも、年度としては来年三月まで。同時に来年は四月まで平成三十一年となる。超ややこしや！

せめても、会計年度と同じにしたらマシだったのに。統一地方選挙があるで何だので混乱が予想されたと言うが、そこに主権者たる国民の意見は何ら反映されていない。

世論調査を、もし実施していたらこの結果にはなっていなかったのではなからうか。

たった三十年ほど前に過ぎない昭和から平成への変更の時の混乱を覚えていないのか。

あの時は天皇の逝去による変更だったから多くの一般行事が自粛」という形で中止された。

今度は違う。新天皇は私の一歳下（現在五十七歳）になるので、またしてもそう長くない元号の期間が予想される。

その間に皇族方の結婚など慶事が相次ぐものと思われる。もちろん、新天皇による大嘗祭などの宮中行事も多々ある。

度重なる行事が繰り返し報道され、今年から来年にかけて日本中が「皇室アルバム」化するのだろうか。

私たちは天皇の御代（みよ）を生きているのではない。むしろ、国民統合の象徴たる天皇が、現代の只中に生きている。

たまたま長かった昭和に人生のほとんどを生きた人たちは「昭和世代」と呼ばれた。

私のような、元号三代を生きる者は、何世代と呼ばれるのか。いや、もうそのような括りは必要ないことだろう。

思い切って、元号は皇室や宮内庁だけで使用するものとしたら、どうだろう。明治までは、大多数の国民にとって元号の感覚は薄かった、決して古来伝統のものではないのだ。

そう言えば、あの「プレミアムフライデー」はどこに行っただろうか(笑)。

国民不在で、お国の主導するものは、お寒い限り。

今日がいつの日であっても、主と共に歩む日々は、プレミアムエブリデーである。